

市内における幼稚園児の体力・運動能力

に關する基礎調査

その1. 幼虫の育ち・産卵の産みの様子について

第一頁

(初音、五知雅園)

目的： 子どもたちと生活から親と大空、大地と空気を奪いとり、に今更け社会、交通戦争、大汚染、生態破壊など、生活環境の急激な都市化現象などは、子どもたちから、おとなや運動する機会をも奪い取っています。このような生活環境の急激な変化によって社会生活は、ますます短縮的様相を呈し、時代となり、21世紀の時代と銘を冠する現存する子どもたちの人間づくりは、幼少期時代から積極的にとりかかることがあります。近年、子どもたちの地位の登壇は高くなってきてきてはいませんが、

、反面、持力や運動能力が不足の向上にふさわしい差違を伴っていないことが、多くの研究を通じて指摘されています。「リッポで力尽しのやばっ子」、「肥後屋」がふえてきているともまた、周知の通りであります。そこでこの問題をとりあげ保土若戸内の幼稚園児に「田嶋幼式幼児運動能力簡易検査法」を用いて、幼児の持力・運動能力テストを実施して、戸内の幼稚園児の持力及び運動能力の現状を明らかにし、幼稚園での身体的活動の基礎資料にすることを目的とする。

本研究では、運動の基礎能力と技能的才能
とに別けて、その発達について性別、年令別に
比較検討する。

調査方法： ①調査実施期間 昭和46年6月7日～6月11日、②調査の対象 雲上谷足町の私立幼稚園4校 男596名、女586名、(調査園児数の内訳は表Ⅰの通りである。

2)調査項目、身長・体重、口界均台あるき(3秒
泥のみ)、指足おち・立堀とび・けんけんとび、
ぶらさがり足あび・巻わとみ・まわりつき

なほ、上記調査資料の分類は、“日私幼式幼便運動能力調査検査法”に準じた。

また今回の調査を実施するにあたって、各幼稚園の先生方とも数回打合せをおね連絡に参加していただいた。調査の際、奥門の先生方が参加し、

表 1. 調查人員

姓名	4.0~		4.6~		5.0~		5.6~		6.0~		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
A園	6	5	6	6	3	5	9	6	4	5	55
B園	6	6	5	6	5	9	10	9	5	5	66
C園	29	29	48	39	30	47	67	62	31	29	411
D園	2	7	14	5	12	15	17	17	5	10	104
E園	10	11	9	7	8	7	18	19	8	7	104
F園	16	12	26	29	16	15	26	31	21	21	213
G園	12	10	24	24	24	13	32	32	11	7	189
H園	0	0	0	0	3	4	14	9	4	6	40
合計	81	80	132	116	101	115	193	185	89	90	1182

表2 實施方法

[illegible]

測定することが望ましいのであるが、實際上、無害が生ずるし、また対象が幼愛であるがために必ずしもよい方法ではないように思われる。そこでここにては測定値は絶対的なものではなく、一地域の実態であり、目安としておきたい。むしろこの結果から明日の保育を考えるうえの資料としたい。

(各、調査期間中に軽疾病や家庭の事情等で休んだものは追加して測定を実施したが、期限を限定したため、一部はカットせざるを得なかった。

た。)

調査結果と考察： 母土谷足内幼稚園の発達
及び体力・運動能力テストの年齢別・性別・平均
値及び標準偏差は表3の通りである

表3 運動能力と平均値と標準偏差

	年令	調査 人数	片足 立ち	片足 立ち とび	けんけん とび	ぶらさがり 足あげ	なわとび	まりつき
男	4.0~	91	77.20 15.17	5.31 1.28	2.19 1.77	1.31 2.03	0.36 1.04	1.55 1.52
	4.6~	132	20.43 21.31	5.67 1.26	2.42 1.98	1.04 2.48	0.29 0.71	2.84 3.64
	5.0~	101	24.34 22.85	5.92 1.47	3.82 2.24	2.95 3.45	2.41 2.16	3.34 3.24
	5.6~	193	58.26 52.19	6.86 1.31	5.26 2.68	4.02 4.79	2.46 4.48	4.34 3.68
	6.0~	89	82.52 92.17	7.26 1.27	5.92 3.17	3.97 4.52	3.87 7.14	5.94 5.88
女	4.0~	80	22.02 25.36	5.04 1.06	2.43 1.59	1.08 2.26	0.91 3.48	3.51 5.47
	4.6~	116	28.25 23.97	5.57 1.42	3.23 1.79	2.58 3.27	1.99 4.26	5.41 10.47
	5.0~	115	42.20 43.15	5.93 1.32	4.54 2.21	4.10 6.18	5.47 8.52	9.11 12.59
	5.6~	185	82.43 82.97	6.57 1.61	6.99 1.31	6.74 6.05	13.22 21.60	17.25 40.88
	6.0~	90	102.06 102.29	6.77 1.35	6.17 3.17	5.18 5.02	21.13 34.57	24.04 48.09

4.6.5.7~11 (調査)

(注) 上段はM、下段はSD。

表4 格位(調整格重)の平均値

	4.0~	4.6~	5.0~	5.6~	6.0~	6.6~
	男	女	男	女	男	女
A園	101.52 16.35	102.88 16.08	105.67 16.45	106.03 17.35	107.1 17.54	106.60 17.54
B園	109.60 17.1	112.40 16.70	115.00 18.75	118.20 17.91	122.20 18.00	113.20 18.30
C園	102.95 20.02	100.29 15.78	105.07 17.07	106.36 15.89	106.96 17.45	105.72 17.21
D園	99.95 14.60	98.47 13.91	102.5 19.80	103.96 16.80	112.21 17.67	112.40 18.75
E園	104.50 15.80	106.60 19.52	109.57 18.98	111.62 18.98	114.12 19.50	113.32 19.50
F園	100.09 15.50	101.08 16.18	101.38 16.66	102.43 17.36	107.21 17.45	106.59 17.21
G園	99.95 14.60	100.14 16.63	103.84 17.31	103.96 16.80	102.21 16.26	99.98 16.34
H園	101.15 18.5	98.73 14.60	105.20 17.87	106.99 17.22	105.40 16.60	106.59 17.21

(注) 上段は身長(cm)、下段は体重(kg)

(B園・E園の4.0~4.11の身長・体重の平均値

(は記録記入の際予断なきがあたりかた)

表4では運動能力を運動に必要な基礎的な能力
と、技能的な能力とに大別し測定した。その結果

1)片足立ち プランコにのる、高いところによ
がる 不安定な場所で運動する、不安定な姿勢で
運動するなどに必要な能力である。片足立ちの結果
、運動能力の個人差が著しくな。た。

2)立膝とび 遠くへとぶ、高くとぶ、すばやく
走るなどにも子どものあそびには必要な能力であ
る。男ははらけ月周の差がどの年令でも有意な差
がみられた。

3)けんけんとび 片足あるいは両足でとびつつ
けるあそび、時には押したり、引くはったりする
あそびに必要な能力で、男・女子どもにあまり
差がなく、どちらかというとなりのほうが有意で
ある。

4)ぶらさがり足あげ よじのぼり、ぶらさ
がってあそびしたり、鉄棒などのあそびに必要な能
力で、注意の著しくあらわれる項目の一つであ
る。

5)なわとび 腕の運動と足の運動との調整能力
をみるものでリズム感の発達とも関係がある。
注意の著しくあらわれる項目の一つである。

6)まりつき 目と手の調整能力をみるもので、
男・女の子の平均値を比べると、各年令とも女子
の方が、男子よりもはるかに遅い、特に女子5~
6才にかけて著しい

7)この調査を実施したことによって多くのこ
とを子どもたちから学んだ。

1.運動能力テストが運動性となって、まりつき、
なわとび、けんけんあそびなど、あそびの中にど
り入れられるようになった。

2.けんけんとび、ぶらさがり足あげでは、精神
的ながんばりや粘りやすさ、かすり強さといっ
たような意志的なものと関連性があるのではない
か。

3.3項運動のよくないと思われていた子どもが以
外によい結果が出た。

4.幼稚園の運動能力は個人差が著しく特に技能と
ともなうあそびは、生活経験差が考えられ、また
項目によっては男女差がは、まりつきで多
くみられている。

今回の調査については足内の次の幼稚園に
ご協力をお願いした。足内幼稚園、セントメ
ー幼稚園、レザン幼稚園、高知幼稚園、平
中先生、夢園幼稚園、田山先生、三島幼稚園
園、大見先生、向原幼稚園、若森先生、立
正幼稚園、田島先生、若草幼稚園、石川先生。